

■ 所管事務調査報告 ■

総務文教常任委員会

令和 4 年 3 月 25 日

調査事項	山口東京理科大学薬学部校舎建設事業に関する検証報告について
調査日時	令和 4 年 3 月 23 日午前 10 時から
調査によって明らかになった事項	<p>1. A棟建設工事が当初設定した工期内に完成しなかった問題について</p> <p>○この問題が生じた最大の要因は、限られた関係者だけで検討し、大学の制度や仕組みを十分に理解せず、具体的な施設整備計画の検討を行わないまま、薬学部の開学時期を決定し、適正な工期を確保できていないことを明らかにせず事業を進めたことにあった。</p> <p>(主な質疑)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「前市長がした約束について確認したい。どのようなものなのか」との質問に「平成 28 年 10 月 3 日に、市内の A、B ランクの建設業者を対象に、この工事に関する説明会を開催し、前市長が適正な工期を確保できないため、工期内に工事が完成しない場合は工期の延長を認めるとともに、ペナルティを科さないことを市長として約束したという文書を書かれている」との答弁 ・「その約束について、引継ぎがなされていないと認識しているか」との質問に「御指摘のとおり」との答弁 ・「なぜ一部の関係者だけで検討し、限られた人数で工事が進められたのか」との質問に「議会からも度々指摘があったが、脆弱な体制であった。建設部等との協力体制を組まなかったのは、前市長の考えであったと思う」との答弁 ・「A棟、B棟ともに工事の適切工期が確保されていなかったのか」との質問に「B棟は適切工期が確保されていない中で完成しており、感謝するしかない。A棟も最終的に 15 か月の工期で完成しており、頑張って施工されたと考えている」との答弁 ・「大学の公立化や薬学部設置の決定までの動きが見えない。この空白期間はどうだったのか」との質問に「大学廃校の

方針が外部に出たら大きな問題となるので、水面下で進められたと推察している。その判断がよかったかどうか、分からないが、今後このような大きな事案について、藤田市政においては専門家の知見も取り入れ、早い時期に議会とも協議して進めたい」との答弁

2. 薬学部増築工事における設計業者の設計ミス等に関する問題について

○設計において生じた様々な問題は、設計に必要な適正な工期を確保せず、仮成果品の確認を適切に行わないまま発注し、将来的に増工の可能性が多分にあることを十分に認識していながら、説明責任を果たさないまま工事を進めたことにあった。

(主な質疑)

- ・「C工事での追加経費はどれくらいか」との質問に「空調設備で2億円と記載すべきところ2,000万円と記載し、この分が追加経費となった」との答弁
- ・「そうなった原因は何か」との質問に「設計期間が短く、設計業者も市も、このような特殊な業務についての経験知識がなかった」との答弁
- ・「転記ミス、積算ミスの防止対策は講じているか」との質問に「脆弱な体制も原因であり、建設部では複数人で設計書を確認するようにした」との答弁

3. 危険物倉庫棟建設工事に関する問題について

○この事態を招いた責任は、当然担当職員にもあるが、上司が起案文書の確認や関係法令等の確認を十分に行わずに決裁したこと。つまり、決裁権者としての役割を果たしていなかったことから、最終的には組織にある。

(主な質疑)

- ・「建物の耐火被覆の範囲の確認について、なぜ設計業者はきちんと対応しなかったのか」との質問に「こちらの質問が相手側に理解されなかったのか、その逆も考えられるが、口頭でやり取りしており、文書のようなものは何も残っておらず、明確になっていない」との答弁
- ・「言った言わないをなくす改善をしているか」との質問に

「文書、メール等、後で検証できる形のを協議している」との答弁

- ・「新たに危険物倉庫を設置したが、当初の危険物倉庫はどうなっているか」との質問に「大学できちんと活用されている」との答弁
- ・「都市計画の用途変更をした理由は何か」との質問に「今までは第一種住居地域であり、危険物の量は限られていた。別の設計業者が調査した結果、工学部や薬学部で保管する危険物の量は準工業地域に用途変更をしなければ保管できない量であったため」との答弁
- ・「組織体制に問題があったとあるが、今後どうするのか」との質問に「体制が脆弱であった。横の連携を取れるようにするとともに、組織の風通しのよさ、報告・連絡・相談、確認事項等の充実を図る」との答弁

4. 公文書の不適切な取扱いに関する問題について

○担当職員は多くの業務量を抱えており、プレッシャーは相当なものであった。通常どおり、上司への説明や工事打合せ簿等の必要書類の作成など適切な事務手続きを踏んでいては工期限内に完成しないおそれがあったため、それらを省略し、実際の現場に合うように数値の書き換え等を行ったと推察している。

(主な質疑)

- ・「誰がしたかより、何故そうせざるを得なかったのかを推測すると、二度と起こらないような対策が必要と思うが、どうか」との質問に「事業課で二度と起こらないように、新たな対策を徹底しており、職員研修も計画している」との答弁

5. まとめ

○検証で全ての事実関係を明らかにすることはできなかったが、今回の原因や問題点は把握できた。市が最優先に取り組むべきことは、検証から明らかになった課題を解決し、市民の市政に対する信頼を取り戻すことである。

全庁体制で再発防止に取り組むとともに、職員一人一人が自

	<p>身のことと捉え、公務員として、市職員としての責任と自覚、そして高いコンプライアンス意識を再認識し、業務を遂行するよう徹底する。</p>
今後の委員会の対応又は結論	<p>議会と執行部は信頼関係で成り立っているが、公文書が正当でなかったことは、議案を審査する議会として甚だ遺憾である。二度とこのようなことが起こらないよう改善策を徹底してもらいたい。</p>